

教育目標

自ら考え行動し、協働できる生徒の育成 ～つながりを意識した学校～

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和4年10月21日	学校運営協議会

（１）「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

重点目標

カリキュラム・マネジメントを通して実践する協働の基盤となる言語能力を育成する

具体的な取組

カリキュラム・マネジメントの3つの側面から育成を目指す資質能力である「言語能力」を育成する

①教科横断的な視点

- ・全ての教育活動で言語能力の育成を意識する
- ・内容（教材）、思考ツール、話し合いの手法、GIGA 端末の活用を関連単元配列表に記入、他教科との関連を交流して教科横断的な活用をめざす

【授業改善に向けて】

- ・新学習指導要領に対応した授業と評価の実践。特に思考力・判断力・表現力をつける授業と評価
- ・「しなやかな道徳」研究指定を受けての授業研究の推進

②PDCA サイクルの確立

- ・教科会・学年会・職員研修において学習確認プログラムや全国学力・学習状況テストの分析を行う
- ・振り返りシートを見直し、改善する（「自己変容」「他者からの学び」ができるもの、主体的に学習に取り組む態度が適切に見とれるもの）
- ・スケジュール帳とキャリア・パスポートを活用する

③人的物的資源の活用

- ・GIGA 端末の授業での効果的活用
- ・より深い小中連携の実践（小中主任会の複数回実施、合同研修会、作品展、美化活動、キャリア・パスポートの活用、ジョイントプログラムや体力テストの結果共有）
- ・ゲストティーチャーによる授業の実施

（取組結果を検証する）各種指標

- ・ジョイントプログラム、学習確認プログラム、全国学力学習状況調査の分析結果
- ・家庭学習の点検結果
- ・生徒、保護者アンケート結果
 - ① 自主的に家庭学習ができましたか
 - ② 自分の思っていることを人に伝えることができましたか
 - ③ 友人と仲良く協力して活動できましたか
- ・教職員アンケート結果
 - ① 「協働」を意識した授業が行えましたか
 - ② 自ら学ぶ姿勢の育成ができましたか

中間評価

	各種指標結果 ・生徒・保護者アンケートの結果 令和4年度 令和3年度 生 ①自主的に家庭学習ができましたか。 30.2%←27.9% 保 18.5%←23.1% 生 ②コミュニケーション力（聞く力、話す力）がついたと思いますか。 51.0%←54.2% 保 30.1%←29.2% 生 ③人前で話すことが前よりできるようになりましたか。 49.7%←53.2% 保 23.5%←23.1% ・教職員アンケートの結果 「言語能力の育成」を意識した授業が行えていますか。 86.1%←89.7% 生徒が自ら考え、行動するように指導できていますか。 88.9%←93.1%
自己評価	分析（成果と課題） ・ジョイントプログラム・学習確認プログラム結果 ・1年生ジョイントプログラム国語は全市平均、数学は全市平均を下回る結果。あまり定着していない家庭学習を増やして、最終的には自学自習のできる生徒の育成を目指したい。 ・2年生学習確認プログラムは、数学以外は全市平均を上回った。2年生は学力の推移としては大きく変化はないが、全体として少しずつ成果が出ている生徒が増えているようである。 ・3年生学習確認プログラム国語、英語は全市平均を上回った。数学、理科、社会はほぼ全市平均と同等だった。理解が深いA層、B層が増え、着実に学力を伸ばしてきている。
	分析を踏まえた取組の改善 1年生 基本の力が定着するよう、できる範囲で個別の指導などを丁寧に行っていきたい。 2年生 学習に対する姿勢やテストに向けての取組など、地道なことを着実に取り組ませることで、学力を向上させていきたい。 3年生 進路実現に向けてさらに学力をつけていけるように取り組んでいきたい。 全校生徒 「自主的に家庭学習ができましたか」というアンケート結果をふまえ、再度学年や教科で家庭学習の重要性を共通理解し、効果的な家庭学習をさせていけるように取り組んでいく。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ・ジョイプロ・学プロ・全国学力・学習状況調査の分析結果。 ・生徒・保護者アンケートの結果 ① 自主的に家庭学習ができましたか。 ② コミュニケーション力（聞く力、話す力）がついたと思いますか。 ③ 人前で話すことが前よりできるようになりましたか。 ・教職員アンケートの結果 ①「言語能力の育成」を意識した授業が行えていますか。 ②生徒が自ら考え、行動するように指導できていますか。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・カリキュラム・マネジメントを通じて言語能力を育成する重点目標がありますが、対人に感情や思いを声や文章で伝える行為は、生徒によって得意・不得意があると思います。平日頃から家庭や中学校においてしっかりとコミュニケーションを取ることです。 ・「今、もしくは将来何がしたいか」それを実現する為には、どういう勉強が大切なのか考え、

生徒自身が自ら目的に向けて自主的に勉強に取り組む方向へもっていく事が大事と思います。
・中学生の時期は基礎的な知識をより多く吸収させ、ともに読解力や構築力も鍛えてほしいと思います。

(2)「豊かな心」の育成に向けて

重点目標

自己有用感を高め、自尊感情の高揚を図り、自他を大切にする心など、つながりを意識した豊かな人間性の育成を目指す

具体的な取組

- ・生徒が関わる周りの人たちとのつながりを意識し、自己肯定感や自己有用感が得られる取組の推進
- ・「生徒を切り捨てない」「生徒を切り離さない」を基底に据え、共感的な生徒理解に基づく個に応じた指導の推進を図るとともに、生徒相互、生徒と教職員の受容的・共感的な人間関係の育成、深化
- ・「豊かな心」の育成の柱となる道徳教育の充実
- ・道徳的実践力を育むため、道徳教育との柱となる道徳の授業と特活、行事との連携
- ・学校経営の柱である「受容的・共感的な人間関係の育成」に向けた、一人一人が大切にされていると実感できる学級づくりの推進
- ・生徒たち自身の手による「より質の高い集団作り」に向け、生徒会活動の一層の活性化
- ・教育活動全体を通した、人権尊重の精神の育成
- ・生徒たちが多文化共生社会の担い手となるため、太秦の地と外国とのつながりに気づく取組の推進

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・生徒、保護者アンケート結果
 - ① 自分を大切にしていますか
 - ② 他人を大切にしていますか
 - ③ 1人1人が大切にされている学級ですか
 - ④ 友達や先輩、後輩とつながっていると感じていますか
 - ⑤ 家族や先生など大人とつながっていると感じていますか
- ・教育相談の結果

中間評価

各種指標結果

	令和4年度	令和3年度
・生徒・保護者アンケート		
生 ①自分を大切にしていますか。	52.7%	59.6%
保	49.2%	51.2%
生 ②他人を大切にしていますか。	73.3%	77.9%
保	47.3%	48.1%
生 ③一人一人が大切にされている学級ですか。	59.6%	66.3%
保	26.0%	31.9%
生 ④友達や先輩、後輩とつながっていると感じていますか。	66.8%	69.5%
保	44.2%	58.8%
生 ⑤家族や先生など大人とつながっていると感じていますか。	74.2%	73.7%
保	47.0%	52.1%

自己評価	分析（成果と課題） ・多くの項目で数値が減少している。今一度、教職員一人一人が教育活動を振り返り、スキルアップしていく必要がある。 ・現在学中の生徒は中学校入学当初から活動が制限され、自分たちが活躍できる場や他者からの評価を受ける機会を奪われてきた。自己肯定感を高める経験が少なく、「自分を大切にしている」「他者を大切にしている」という感覚をもつ生徒が昨年度よりも減ったと考えられる。 ・学校行事や部活動に制限がかかることで「友達や先輩、後輩とのつながり」を感じる機会も減少したため、④の数値も減少したと考えられる。しかし、その分大人との関わる時間が増えたため、⑤の数値は上昇したと考えられる。 ・保護者からの「一人一人が大切にされている学級ですか」の項目で減っている原因としては、コロナ禍のために家庭訪問や行事の参観の縮小など、学校での生徒の様子を知る機会を制限されたことも一因と考えられる。
	分析を踏まえた取組の改善 ・このアンケートの結果を真摯に受け止め、教職員間で共通の目標を設定し、教育活動の改善を図る。 ・活動が制限された中でも生徒の自己肯定感を高める方法はある。コロナ禍だからこそ、日々の生活で今まで以上に生徒と関わり、生徒を褒める機会を大切にしたい。 ・また授業では、生徒がパフォーマンスできる機会や評価される機会を増やすなど、それぞれの教員が意識して教育活動に当たりたいと考えている。 ・コロナ禍で、保護者に生徒の様子を参観してもらうことが難しい。学級・学年通信や学校だより、ホームページ等で、学校の取組や生徒の様子を積極的に発信していきたい。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ・生徒・保護者アンケート ① 自分を大切にしていますか。 ② 他人を大切にしていますか。 ③ 一人一人が大切にされている学級ですか。 ④ 友達や先輩、後輩とつながっていると感じていますか ⑤ 家族や先生など大人とつながっていると感じていますか
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・コロナ禍もあり様々な制約の下、プレッシャーを抱えた生徒たちにとって、中学校が安心安全で個々が自分らしさを発揮できる場所であることを願います。 ・最近はSNSなどで自身の素性を明かす事なく意見や感想を述べる事ができる為、誹謗中傷が大変目立っています。心に余裕を持たせることが大事かと思います。 ・学校での道徳教育の授業だけでなく、家庭でもしっかりと道徳を見つめ直し、お互いが思いやりを持って明るい楽しい家庭の雰囲気を作って貰えれば、友人関係・教員との関係も良好な関係が築けると思います。 ・心がけ等の心の持ち方が未成熟で、自然の厳しさを体験させることも大切だと思います。また物事に対して、常に肯定的・建設的に捉えていく姿勢も重要です。 ・放課後や休日に公園などで子どもたちを見かけなくなった。友達と話す機会が少なくなっているのではないかな。これから、子どもも大人も繋がりを大切にすることが必要。

(3)「健やかな体」の育成に向けて

重点目標

自らの健康について考え、生涯にわたって自らの健康をコントロールし、「自らを律する力」「自らを改善していく力」を育成する

具体的な取組

- ・食事、運動、休養、睡眠など調和のとれた基本的な生活習慣の習得
- ・飲酒、喫煙、薬物の有害性や危険性、医薬品についての正しい知識の修得とその活用
- ・運動することの楽しさを味わい、生涯スポーツにつながる体育学習のより一層の充実
- ・心身の健康の保持増進を目指した食教育の推進
- ・交通事故や水難事故、転落事故、熱中症等様々な危険から身を守るための知識を身に付け、判断力を養う安全教育の充実
- ・地震、台風、豪雨、火災等の災害は身近に起こりうるものとして捉え、主体的に行動する力を育てる防災教育の推進
- ・感染症の予防についての正しい知識の習得と適切な行動を实践できる保健教育の充実

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・生徒、保護者アンケート結果
 - ① 防災や喫煙、薬物の危険性など十分にわかりましたか
 - ② 規則正しい生活ができていますか
 - ③ 自らの健康増進ができていますか
- ・教職員アンケート結果
 - ① 健康増進に向けた指導をできていますか

中間評価

各種指標結果

		令和4年度	令和3年度
・生徒・保護者アンケート	生 ①防災や喫煙・薬物の危険性など十分にわかりましたか。	87.5%	91.6%
	保	59.6%	62.7%
	生 ②規則正しい生活ができていますか。	36.4%	38.2%
	保	25.1%	21.5%
	生 ③自らの健康増進ができていますか。	39.0%	42.6%
	保	19.7%	18.5%
・教職員アンケート			
	① 健康増進に向けた指導をできていますか。	91.7%	86.3%

自己評価

分析(成果と課題)

- ・防災等の危険性の理解は、昨年度同様比較的高い。昨今は豪雨などの災害も頻発しており、関心は一層高くなっていると思われる。
- ・規則正しい生活や健康増進については、保護者や教職員の回答が増加傾向にある一方で、生徒自身の回答は昨年度より低下している。新型コロナウイルス感染症の流行が長期にわたり続いているため、生徒自身の健康に対する意識をいかに維持できるかが課題となっている。「自分を大切にしていますか」の回答も同様に低下傾向であることから、自己肯定感の低さが健康を保持増進する意欲の低下につながっている可能性も考えられる。

学 校 関 係 者 評 価	分析を踏まえた取組の改善 ・例年取り組んでいる安全や防煙、薬物乱用防止等に関する学習の時間を大切に、学びを定着させていく。 ・コロナ禍での新しい生活様式についての指導と合わせて、望ましい生活習慣や健康増進に関する啓発及び指導を学校生活の様々な場面で適宜行っていく。その際、保健委員会による発信などの全体指導と、生活習慣が乱れがちな生徒への個別指導をあわせて行う。また、生活改善に対する意欲が高まるよう、自己肯定感を高める関わりを意識して行う。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 ・生徒アンケート ①防災や喫煙・薬物の危険性など十分にわかりましたか。 ②規則正しい生活ができていますか。 ③自らの健康増進ができていますか。 ・教職員アンケート ①健康増進に向けた指導をできていますか。
	学校関係者による意見・支援策 ・よく食べる、よく寝る、よく笑う、体を動かす。どれも大切ですが、健やかな体には健やかな精神の育成が不可欠だと思います。 ・子どもたちの体力が低下してきています。日頃から体を動かし積極的に運動に親しむ習慣、あるいは意欲を育成できれば素晴らしいと思います。 ・先日の体育大会を拝見させて頂きました。生徒たちの自主的な大会運営と何事にも積極的にチャレンジしている姿又ミスを恐れる事なく取り組む姿勢に感動しました。 ・無理のない基礎体力、身体づくりを継続し、良い形で生活習慣化を確立することが大切。 ・「規則正しい生活ができていますか」というアンケート結果が低い原因は、携帯電話の使い方が影響しているのではないのでしょうか。家庭でしっかり話し合い帰宅時間や就寝時間を決めるなど、生活習慣を見直すことも必要。 ・中学校給食について、小学校のような給食にして欲しいということをたくさん耳にする。栄養面や温かい昼食を取ることは心身ともに大切なこと。しかし、設備の問題などなかなか難しい問題ではあるが、そういう意見があることは知っておくべきことだ。

(4) 学校独自の取組

重点目標 「地域を愛し、主体的に学び、自らの未来を創造する児童・生徒を育てる」
具体的な取組 ・小中校長会、小中主任会のさらなる推進 ・小中合同研究授業、小中合同研修会の充実 ・小学生と中学生がともに学び、ともに活動する場の創造 (相互の行事等への参加、生徒会と児童会のさらなる連携、小学生の授業体験と部活体験への参加) ・小中 PTA の合同行事を通じた連携
(取組結果を検証する) 各種指標 ・教職員アンケート結果 ① 小中一貫教育が進むように意識し、行動できていますか

中間評価

	各種指標結果 ・教職員アンケート 令和４年度 令和３年度 ① 小中一貫教育が進むように意識し、行動できていますか。 ５８．３％←６５．５％
自己評価	分析（成果と課題） ・夏季小中合同研修では、「しなやかな道徳」に関する研修を集合研修で行うことができました。ただし、全教職員を一堂に集めることはせず、新型コロナウイルス感染症の観点から５つの分散会に分け、小中縦割りにしてリモートを通して全体研修を受けることができ、密を防ぐことができました。太秦中ブロックでの児童生徒の実態を踏まえ、今後各校で行われる道徳の授業研究に参加し研修を深めていきたい。 ・『９年間で子どもを育てる』という目的での小中連携を進めることができたのは、大きな成果だと考える。 ・一昨年度、昨年度と同様に、相互の行事等への参加や小学生と中学生がともに学び、ともに活動する場、小中ＰＴＡの合同行事などを、今までの形式で実施することは困難な状況である。 分析を踏まえた取組の改善 ・小中学生がともに学び活動する場を従来の枠にとらわれず、映像やリモート等を活用して新たに創造していく。特に１１月に予定されているオープンスクールでは、少しでも「中学校が楽しみになる」内容になるように工夫して取り組んでいきたい。 ・小中で連携し共通した道徳の重点項目を設定する。 （最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ・教職員アンケート ①小中一貫教育が進むように意識し、行動できていますか。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・昨年度はコロナ禍の中で小中の交流連携が極めて困難な状況にあったと思いますが、小中研究授業・合同研修会・生徒会児童会の連携・ＰＴＡ合同行事の開催等企画検討させている事を積極的に推進して頂ければと思います。 ・小中で連携して、日々の積み重ねの大切さを教え、マナーやモラル、エチケット、清潔、掃除、整理、処分を高めていってほしい。また「心」を伝える「言葉」の大切さを教えてほしいと思います。 ・コロナ禍以前は、中学校の茶道部が南太秦小で茶道体験を実施したり、太秦地域行事「福祉ふれあい祭り」で茶道体験を実施するなど、地域と連携した取組をしていた。新型コロナウイルス感染拡大の様子を見ながら、以前のような取り組みができるように連携していく事が大切。

（５）教職員の働き方改革について

重点目標 教職員の超過勤務時間の縮減をめざす
具体的な取組 ・学校運営の組織化 ・各部の長による部の統括 ・個々の教職員のレベルアップ ・管理職による面談

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・教職員アンケート結果
 - ① 働き方改革を意識して、超過勤務時間削減ができていますか
 - ② 気持ちよく働いていますか
- ・出退勤システムによる超過勤務時間の様子
- ・ストレスチェック

中間評価

各種指標結果

- | | | |
|--------------------------------|-------|--------|
| ・教職員アンケート | 令和4年度 | 令和3年度 |
| ① 気持ちよく働いていますか。 | 75.0% | ←65.6% |
| ② 働き方改革を意識して、超過勤務時間削減ができていますか。 | 55.5% | ←58.7% |

自己評価

分析(成果と課題)

- ・「気持ちよく働いていますか」の問いに対して75%近くが肯定的に答えているように、教職員の協働意識は高く、組織で動くことを今後も大切にしたい。一方で、残りの25%の教職員がそうではない原因に目を向け改善していくことが大切である。
- ・電話対応時間を午後7時まで、長期休業期間は午後5時半に徹底している。また、毎週水曜日を「19時セットデー」とし退勤時間を意識した働き方を呼び掛けている。しかし、現状では19時にセットすることはできていない。
- ・自由記述欄に「全体的に勤務時間が長い、そして短くしようとする具体的方策がない」との記述があった。19時にセットできるような具体案を模索するなど、超過勤務時間削減を意識した働き方を共有していきたい。
- ・出欠連絡フォームやPTAメールなどを活用することで、新型コロナウイルス感染による電話対応が少なくなり時間外勤務はすくなくなった。しかし、現状のシステムではPTAメールの登録確認に時間がかかるなどシステムの改良もしくは、別システムの導入を検討してほしい。
- ・採点ソフトが去年のシステムから改良され、さらに利用しやすくなり採点・評価等に関わる時間短縮ができています。

分析を踏まえた取組の改善

- ・仕事の偏りに目を向け、学年や分掌での役割分担等を見直していく。
- ・時間外勤務を分析すると、部活動が占める割合が大きい。部活動にやりがいをもって働いている教員も多いことから、部活動の時間を減らすといった安易な考え方ではなく、勤務時間全体を減らす意識を全教職員と共有する。
- ・若手への適切な指示が出せる中堅の育成、そして、そのことを通した若手の成長を図っていく。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・教職員アンケート
 - ① 働き方改革を意識して、超過勤務時間削減ができていますか。
 - ② 気持ちよく働いていますか。
- ・出退勤システムによる超過勤務時間の様子
- ・ストレスチェック

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	・ニュースでも度々目にしますが、過労死ラインを超える勤務時間の改善が必要だと思います。特に部活動での負担を外部指導員などの活用を検討する必要があると思います。 ・働き方改革の推進と(1)(2)(3)の強化は相反するものだと思います。当事者である先生の思いを大切にしながら考えていくことが大切だと思います。 ・働き方改革の実績が重視されすぎて、教育の質が低下しないよう望みます。 ・本来なら教職員が生徒たちに向き合える時間が必要であり、業務に専念できる環境づくりが必要。PTAと協働しながら改革を進めることも大事。 ・部活動の地域移行を進めていき、それが教職員の負担軽減にもつながるのであれば、体振としても積極的に協力していきたいと思っている。

(6) いじめの防止等についての取組に向けて

重点目標
自ら考え行動し、協働できる生徒の育成
具体的な取組
「学校いじめ防止基本方針」に同じ
(取組結果を検証する) 各種指標
・全教職員が学校いじめ防止基本方針の内容を理解し、組織的対応に努める ・学校のいじめ対策委員会のメンバーを児童生徒に紹介する ・生徒、保護者アンケート結果 ① 1人1人が大切にされている学級ですか ② 他人を大切にしていますか ・生徒、保護者の訴え（アンケート結果含む）や相談内容の共有 ・保護者や学校運営協議会等に、学校いじめ防止基本方針や学校の取り組みを説明、周知する

中間評価

各種指標結果
・全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、 組織的対応に努める。 令和4年度 令和3年度 91.6%←96.6% ・学校のいじめ対策委員会のメンバーを児童生徒に紹介する。 ⇒ 紹介した。 ・生徒・保護者に次の学校評価アンケートを行う。 - 生「一人一人が大切にされている学級ですか。」 59.6%←66.3% - 保 26.0%←31.9% - 生「他人を大切にしていますか。」 73.3%←77.9% - 保 47.3%←48.1% ・児童生徒・保護者の訴え（アンケート結果含む）や相談内容の共有 91.7%←100% ・保護者や学校運営協議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取り組みを説明・周知する。 ⇒学校だよりやホームページを通して、保護者へ学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知した。
自己
分析（成果と課題）
・全ての項目が下がっている。生徒同士が認め合える人間関係を作っていけるような指導を一層

評価	心掛ける必要がある。 ・学年会、補導部会、生徒指導委員会を中心に情報を共有し組織的な対応を行っている。突発的な事象が起きた際にも、報・連・相をより一層徹底していく必要がある。また、全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解するように発信していく必要がある。 ・「他人を大切にしていますか」の項目が下がっているのは、教育活動が制限されているため、他者と関わる機会が減ったことも一因である。
	分析を踏まえた取組の改善 ・生徒の小さな変化を見逃さず、教職員間で情報を共有して、組織としていじめ未然防止に努める。また、学校の取組を知らせていくことを大切にする。 ・中学校入学前や学校外の人間関係も中学校での人間関係に起因することがよくあるため、小中連携による情報共有、保護者や地域からの情報収集、日常の生徒の言動に常にアンテナを張ることが必要である。 ・教育活動が制限された中でも、他人と関われる、他人のことを考えることができる活動ができるように工夫する。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 ・生徒・保護者アンケート ① 「一人一人が大切にされている学級ですか。」 ② 「他人を大切にしていますか。」 ・教職員アンケート ① 「学校いじめの防止等基本方針」の内容を理解し、組織的対応に努められましたか。 ② 生徒・保護者の訴えや相談内容を学年・学校で共有できていますか。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・生徒や保護者といじめについて問いかけていますが、辛辣ないじめ等については聞き及びません。生徒にとって有意義な学校生活が送れていると思います。 ・いじめの当事者だけでなく、いじめに気づいた生徒が、気負わずに相談できる仕組みも必要だと思います。 ・いじめはやる側、やられる側どちらも全く利益を生まない。やられる側は心に深い傷を負い、やる側は周りから非難を受け、人生に大きな汚点をつける愚かな行為である事をしっかり伝え、相手を思いやる心を持たせる事が大事だと思います。 ・いじめは、それぞれの心の持ちようによるところが大きいと思います。「気に入らない」から「気にならない」へ「健やか・康らか・爽やか・大らか・朗らか」な姿勢や態度へ導きたいものです。